眼科用器具の取扱いに関する注意

器具を安心して長くお使いいただくために、エムイーテクニカが推奨する洗浄・滅菌方法に従ってお取り扱いください。

- 眼科用器具は非常に繊細で複雑な構造を持つ製品が多く、取り扱いおよび、洗浄には細心の注意が必要です。
- 眼科用器具には素材や形状、構造の違いにより、それぞれの器具に適した洗浄・滅菌方法があります。
- 誤った方法での洗浄や滅菌は、器具にダメージを与える原因になります。

洗 浄 対象物の表面に付着している汚染物を物理的に**除去**すること。

滅 菌 有害・無害を問わず対象物に存在しているすべての微生物及びウイルスなどを**殺滅**または**除去**すること。

洗浄における注意事項

●洗浄方法

器具にダメージを与えないよう**浸漬洗浄**を推奨します。
超音波洗浄器やウォッシャーディスインフェクターは、器具に悪影響を与える恐れがあるのでお控えください。

●使用後は洗浄液に浸漬

体液や血液等が付着した器具は、**直ち**に**流水**で洗い流した後、速やかに洗浄液に浸してください。

●管腔構造の器具

管腔内の残存物が凝固したり閉塞することがないよう使用後は**直ちに**通水処理を行い、残存物を排出してください。

●ロックを外し先端を開く

器具の細部まで洗浄液が行き渡るよう、ロック機構がある器具はロックを外し、器具の先端を開いた状態で洗浄液に浸してください。

●初めて器具を使用する際は

ご使用の前に、**純水**による洗浄・浸漬洗浄・滅菌を行ってください。

滅菌における注意事項

●オートクレーブ滅菌を推奨します。

一部の製品には、先端保護用のチューブが取り付けられたものがあります。これらのチューブは滅菌工程で変形したり滅菌効率低下を引き起こす原因になるため、必ず外した状態で滅菌処理を行ってください。

●器具の保護

- 有鈎鑷子やフック、管腔構造を有するマイクロ器具の先端は非常にデリケートに加工されています。滅菌の際には、器具に適した滅菌トレーに収納してください。
- 管腔構造を有するマイクロ器具で、ご購入の際に先端保護キャップが付属している場合には、必ず先端保護キャップを装着した状態で滅菌処理を行ってください。

●ロックを外す

ロック付(止め付)器具の場合は、金属膨張による破損の恐れがあるため、必ずロックを外してください。

●乾燥の徹底

器具に水分が残存すると、サビや腐食が発生したり滅菌効果が低下する原因になります。**完全に乾燥してから**、滅菌を行ってください。

初めて器具を使用する際は　ご使用の前に、**純水**による洗浄･浸漬洗浄･滅菌を行ってください。

洗浄

用手洗浄

直ちに流水で洗い流す

使用後は器具に付着している血液や体液、組織及び薬品等を流水で洗い流します。

※時間が経過し汚れが固着した場合は、手術時に使用する吸水スポンジや柔らかいブラシ等で優しく洗い流してください。

通水

管腔状器具・管腔構造を有するマイクロ器具の場合

シリンジや洗浄チューブで通水を行う

管腔内に残留した組織や粘弾性物質などが凝固し、閉塞や作動不良の原因になります。

- **管腔構造を有するカニューラなどの場合**　シリンジを使用します。
- **管腔構造を有するマイクロ器具の場合**　器具洗浄キット･付属の洗浄用シリコンチューブを使用します。

●VR-720SS　器具洗浄キット

※洗浄方法はP14にてご紹介しております。

●洗浄用シリコンチューブ

1) お手持ちのシリンジに洗浄水を満たし、洗浄用チューブを接続します。
2) 洗浄用チューブに器具の先端を根元まで挿入します。
3) 挿入した器具をしっかり保持し、シリンジを押して洗浄水を押し出しシャフト内を通水した後、シリンジを引き洗浄水をシリンジ内に戻します。
4) この操作を複数回行うことで、シャフト内の残留物は排出されます。

浸漬洗浄

20倍希釈したスワール電解洗浄水100*などで10～15分の浸漬洗浄を行う

- バットにシリコンマットを敷き、その上に器具を並べて浸漬洗浄を行います。
- シリコンマットを使用すると、器具同士や器具とバットの接触を防ぐことができます。
- 超音波洗浄器やウォッシャーディスインフェクターは、器具に悪影響を与える恐れがあるので使用を控えてください。
- ロック付(止め付)器具は、細部まで洗浄液が行き渡るようロックを外し、器具の先端を開いた状態で洗浄液に浸してください。

※スワール電解洗浄水100はP87にてご紹介しております。

濯ぎ

バットから器具を取り出し、流水で濯ぎを行う

器具に残存汚染物や損傷がないか目視で確認を行います。　※残存している場合は再度、用手洗浄と浸漬洗浄を行ってください。

無水エタノール処理

管腔構造を有するマイクロ器具の場合

シリンジで通水 → 無水エタノール処理 → シリンジで通気

- 通水後は、シリンジを用いて管腔内に無水エタノールを通してください。
- 管腔内に残留した水分は排出され、エタノールは揮発します。

乾燥

乾燥

シリコンマットや滅菌トレーに器具を並べて乾燥を行う

- エアコンプレッサーやドライヤーを使用すると乾燥時間を短縮できます。
- 器具に水分が残存すると錆や腐食を引き起こしたり、滅菌効果低下の原因となります。
- 洗浄後は迅速かつ完全に乾燥させてください。

滅菌

収納

器具が完全に乾燥してから、滅菌トレーや滅菌バックに入れる

有鈎鑷子やフック、管腔構造を有するマイクロ器具の先端は、非常にデリケートに加工されています。
滅菌の際には、器具に適した滅菌トレーに収納してください。

滅菌

オートクレーブ滅菌を行う

- **チューブの取り外し**　ご購入いただいた製品の一部には、先端保護用のチューブが取り付けられたものがあります。このようなチューブは滅菌工程で変形したり滅菌効率低下を引き起こす原因になるため、必ず外した状態で滅菌処理を行ってください。
- **保護キャップの装着**　ご購入の際に先端保護キャップが付属している場合、必ず先端保護キャップを装着した状態で滅菌処理を行ってください。
- **ロックの解除**　ロック付(止め付)器具の場合は、金属膨張による破損の恐れがあるため、必ずロックを外してください。